

『ニッポニテス展』

1904年10月15日、
北海道で見つかったアンモナイト
「ニッポニテス・ミラビリス」が
新属新種として論文発表されました。
日本古生物学会は記念日として、
10月15日を「化石の日」と制定しました。

10月15日【化石の日】

2018年

10/10(水) ¹¹/₁₁(日)

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は火曜日)

国立科学博物館 [東京・上野公園]

地球館1階オープンスペース

〈主催〉国立科学博物館

開館時間

午前9時～午後5時

金・土曜日、10月31日(水)、11月1日(木)は
午後8時まで

※入館は各閉館時刻の30分前まで

入場料

常設展入館料のみでご覧いただけます。

常設展入館料

一般・大学生 620円(団体500円)

高校生以下および65歳以上無料

※団体は20名以上



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

お問い合わせ

ハローダイヤル 03-5777-8600

ホームページ

<http://www.kahaku.go.jp/>



Nipponites mirabilis

『ニッポニテス展』

ニッポニテスは、矢部長克が1904年に北海道北西部のオピラシベ川流域（小平町）から発見し初めて報告して以来、北海道各地、サハリン、カムチャッカ、オレゴン（アメリカ）の8800～9200万年前（白亜紀後期）に海で堆積した地層から見つかっています。おそらく、当時の北太平洋地域に広く生息していたものと考えられています。

「ニッポニテス展」では、北海道や極東ロシアから採集された多数のニッポニテス標本を展示します。また、ニッポニテスの形づくりに関する学説も紹介します。



矢部 長克（日本 1878–1969）

地質学や古生物学の幅広い分野で活躍し、古生物に関しては、有孔虫、サンゴ、アンモナイトなど数多くの種類の化石を研究。1918年には糸魚川静岡構造線を提唱。日本古生物学会の初代会長（1935–1936年）と第8代会長（1942–1959年）を歴任。1953年に文化勲章を受章。

展示標本の紹介



カムチャッカ産



稚内市産



夕張市産



サハリン産



小平町産



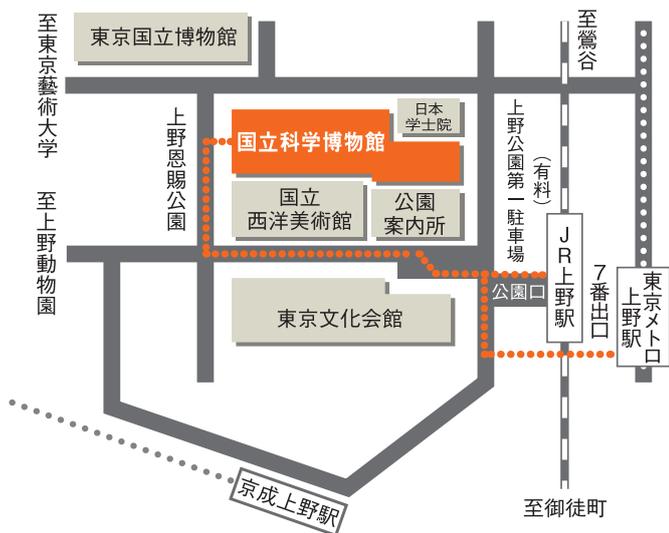
中川町産

10cm

関連常設展示紹介

日本館3Fの北海道産アンモナイトの展示

多くのアンモナイトは平面らせん状に巻きますが、巻きがほどけたり、伸びたり、様々な巻き方をするものもあります。前者を正常巻きアンモナイト、後者を異常巻きアンモナイトと呼びます。異常巻きアンモナイトは、決して奇形や病的な異常なものではありません。北海道からは様々な巻き方をしたアンモナイトが500種以上見つかっています。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

<http://www.kahaku.go.jp>

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

<交通のご案内>

JR「上野駅」公園口から徒歩5分

東京外口銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分

京成電鉄「上野駅」から徒歩10分

（駐車場はありませんので、車でのご来館はご遠慮ください。）